



天才を育んだ街

南スペイン巡礼で最初に訪れたバルセロナは天才建築家ガウディの街として有名だが、バルセロナにはもう一つの顔がある。

バルセロナは天才画家たちを育んだ街でもある。

私たちにもなじみのピカソ、ミロ、ダリなどを育み、人口百七十万余の街に大きな美術館が六つもある。

ガウディの作品だけをめぐる「バルセロナ六日」の旅というコースがあるほどなのに、我々のバルセロナ観光

はわずか五時間。

前泊の博多のホテルを早朝に出て、バルセロナのホテルに到着したのは、二十四時間後の現地時間夜十時。

もちろん、直行便ならもっと早い。しかし安いツアーは乗り継ぎも悪く、ホテルも郊外。

世界遺産の聖家族教会、ゲエル公園、そしてピカソ美術館を駆け足で回り、そのほかは車窓から。

地中海に面して美しい街並みのバルセロナには、せめて三日ぐら

いは滞在したかった。

(宝くじが頼り)

自分の見たいところ

にのんびりと時間をかける旅は金がかかる。

そうなるかと頼りにするのは宝くじしかない。

過日、会社の新聞を見て、一等当選番号を

ボールペンで手のひら

に書いておいた。

家に帰って新聞で確認したら何と一億円が

当たっているではないか!!一瞬「億万長者

だ」と思った。

しかし、落ち着いて

考えると、手のひらの

番号は買った宝くじの

番号ではなく、当選番

号をメモしたものだ。

しかし、あの時のシ

ックは今も忘れられ

ない。以来、心臓の調

子があまり良くない。

生きるためには当たら

ない方が良いのかもしれない。

ピカソが16歳の時に描いた「科学と慈愛」



を利用した美術館は何とも言えない風情がある。

ピカソは、美術学校教師の父親がびっくりするほど幼いころから天才ぶりを発揮した。

写真の「科学と慈愛」が十六歳の時の作品というから、まさに天才だと実感した。

日本人旅行者の責任でもあるが、現地ガイドは土産物店にたっぷり時間を取る傾向がある。客

の売り上げの何%かをもらうのだから、貧乏人の憶測をするのだが、バルセロナのガイド

さんは美術館での説明が長く、土産物店行きが中止になつたの

は良かった。

ピカソが十三歳から十年間過ごしたバルセロナの美しい街並み、芸術の香り漂う街にぜひもう一度訪ねたいと先日、また宝くじを買った。

(帰国後、ピカソの洗礼名が七十字、九人の名前からなっていることを知ってびっくりした)

(元山口放送取締役ラジオ局長)

大変上手な現地ガイドに恵まれ、作風の変化、特に初期の「青の時代」の作品をたくさん見ることができた。

ピカソといえば「ゲルニカ」を連想する方も多いと思うが「ゲルニカ」はマドリッドの美術館にあるので、それには後日ふれたい。

近代的な建物の美術館ではなく、古い建物

ピカソ美術館は、多作で有名なピカソだから、世界に大きなピカソ美術館が三つあるそうだが、バルセロナはその一つ、三千点以上の作品があるそうだ。

ピカソ美術館が三つあるそうだが、バルセロナはその一つ、三千点以上の作品があるそうだ。

ピカソ美術館が三つあるそうだが、バルセロナはその一つ、三千点以上の作品があるそうだ。



ピカソ美術館の入り口